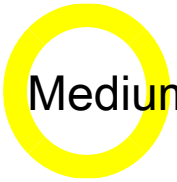
# Cisco Video Communications Serverの情報開示の脆弱性




アドバイザリーID : cisco-sa-20160208-vcs CVE-2016-1316
初公開日 : 2016-02-08 21:00
バージョン 1.0 : Final
CVSSスコア : 5.0
回避策 : No workarounds available
Cisco バグ ID : CSCux73362

日本語による情報は、英語による原文の非公式な翻訳であり、英語原文との間で内容の齟齬がある場合には、英語原文が優先します。

## 概要

Cisco Video Communications Server(VCS)をJabber Guestの導入の一部として使用すると、情報漏洩の脆弱性が発生し、認証されていないリモートの攻撃者が機密情報にアクセスする可能性があります。

この脆弱性は、集約されたコール統計情報を含む情報URLを適切に保護できないことに起因します。URLを知っている攻撃者は、情報を含むページを取得する要求を送信する可能性があります。

シスコでは、本脆弱性に対処するソフトウェア アップデートをリリースしていません。これらの脆弱性に対しては回避策がありません。

このアドバイザリは次のリンクで確認できます。
https://sec.cloudapps.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-20160208-vcs

## 該当製品

### 脆弱性のある製品

Jabber Guestが使用するCisco TelePresence Video Communication Server(VCS)X8バージョンには脆弱性が存在します。

### 脆弱性を含んでいないことが確認された製品

他のシスコ製品において、このアドバイザリの影響を受けるものは現在確認されていません。

## 回避策

回避策はありません。

## 修正済みソフトウェア

ソフトウェアのアップグレードを検討する場合は、 http://www.cisco.com/go/psirt の Cisco Security Advisories and Responses アーカイブや後続のアドバイザリを参照して、侵害を受ける可能性と完全なアップグレード ソリューションを確認してください。

いずれの場合も、アップグレードするデバイスに十分なメモリがあること、および現在のハードウェアとソフトウェアの構成が新規リリースで引き続き正しくサポートされていることを十分に確認してください。不明な点については、Cisco Technical Assistance Center（TAC）もしくは契約しているメンテナンスプロバイダーにお問い合わせください。

## 推奨事項

$propertyAndFields.get("recommendations")

## 不正利用事例と公式発表

Cisco Product Security Incident Response Team（PSIRT）は、本アドバイザリに記載されている脆弱性の不正利用事例やその公表を確認していません。

## URL

https://sec.cloudapps.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-20160208-vcs

## 改訂履歴

| バージョン | 説明 | セクション | ステータス | 日付 |
|---|---|---|---|---|
| 1.0 | 初回公開リリース | — | Final | 2016 年 2 月 8 日 |

## 利用規約

本アドバイザリは無保証のものとしてご提供しており、いかなる種類の保証も示唆するものではありません。 本アドバイザリの情報およびリンクの使用に関する責任の一切はそれらの使用者にあるものとします。 また、シスコは本ドキュメントの内容を予告なしに変更したり、更新したりする権利を有します。
本アドバイザリの記述内容に関して情報配信の URL を省略し、単独の転載や意訳を施した場合、当社が管理した情報とは見なされません。そうした情報は、事実誤認を引き起こしたり、重要な

情報が欠落していたりする可能性があります。 このドキュメントの情報は、シスコ製品のエンドユーザを対象としています。

翻訳について
シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。